

# 各文構造解説

## この冊子の使い方

1つの文について、【英文】→【構造】→【解説】→【語句】の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめりごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼して、要するにどういうことを言っているのか、内容の理解を試みる。  
この時点で理解できなければ、「解答・解説」の日本語訳（意識）で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して、意味を確認する。

最後にもう一度、できれば二度三度、本文英文を、できるだけ速く、頭から意味をとりながら読むこと。

## 凡例および注意点

凡例：

① = 大問番号    ❶ = 段落番号    ❶ = 文番号

構造 = 【構造】

主 = 主語（部）    動 = 動詞（句）    目 = 目的語（句・節）    補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞（句・節）    関代 = 関係代名詞    過分 = 過去分詞    など

「    」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[    ] / {    } / [[    ]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめり

\*❶ = 【解説】とくに注意を要する箇所の指摘および解説

暗例 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする

(    ) = 省略可、あるいは補足・別表現

[    ] = 直前の語句との入れ換え可

<    > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

語句 = 【語句】

[ | ] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語    など

注意：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

# 各文構造解説

大問 ① 段落 ① 文 ①～⑥  
段落 ② 文 ①～④

1

① ① Comedies are popular on television.

構造 主 Comedies 動 are 補・形 popular 「コメディは人気がある」 副 on television. 「テレビで」

語句 comedy [kámədi | カメディ] 名 「喜劇、コメディ」⇒ tragedy [trædʒədi | トウラジェディ] 名 「悲劇」

② Examples include such programs as “Friends” and “The Simpsons.”

構造 主 Examples 動 include 「例は含む」 目 such programs as “Friends” and “The Simpsons.” 「『フレンズ』と『ザ・シンプソンズ』のような番組を」

語句 include [inklú:d | インクルード] 動 「含む」、such A as B 「BのようなA」、「Friends」 「フレンズ (1994年から2004年まで米NBCで放送されたテレビコメディ)」、「The Simpsons」 「ザ・シンプソンズ (1989年から米フォックステレビで放送されているコメディアニメ)」

③ One reason that these television comedies are funny is because they use an effective mix of jokes.

構造 主 [One reason 「1つの理由は」 関副 <sup>1</sup>that these television comedies are funny] 「これらのテレビコメディがおかしいという」 動 is 「～である」 補・名 <sup>2</sup>[接 because they use an effective mix of jokes]. 「なぜならそれらはジョークの効果的な混合を利用するから」

\*1：関係副詞 why を代用する that。口語では省略されることが多い。  
\*2：接続詞 because はここでは名詞節をつくり、節全体がbe動詞の補語となっている。文法的にはthatが正しいとされるが、reasonとbecauseの関係が意識され、よく用いられる。

語句 funny [fáni | ファニ] 形 「笑える、奇妙な」、effective [ifektiv | イフェクテヴ] 形 「効果的な」、mix [miks | ミクス] 名 「混合、混ざったもの」

④ One kind of joke in these television comedies is called a “running gag.”

構造 主 [One kind of joke in these television comedies] 「これらテレビコメディ中のジョークの一種は」 動 is called 補・名 <sup>1</sup>a “running gag.” 「ランニングギャグと呼ばれる」

\*1：受動態の文。能動態に直すと、主 They 動 call 目 one kind of joke in these television comedies 補・名 a “running gag.” で、SVOCの第5文型（主語Theyは「(一般の)人々」を表す）。このときのa “running gag”は目的語(O)を補足説明する〈目的格補語(C)〉。受動態は目的語を主語に変換する表現なので、受動態の本文では、a “running gag”は主語を補足説明する〈主格補語〉となる(SVCの第2文型)。

語句 running [ráníŋ | ラニング] 形 「連続している」

⑤ A running gag is a funny situation or line of dialog that happens repeatedly in a comedy.

構造 主 A running gag 動 is 「ランニングギャグとは～である」 補・名 [a funny situation or line of dialog 「笑える状況あるいは対話の一節」 関代 <sup>1</sup>that 動 happens 副 repeatedly 副 in a comedy]. 「コメディの中に繰り返し起こる」

\*1：先行詞をa funny situation or line of dialogとする主格の関係代名詞。

語句 situation [sitʃuéisjən | スイチュエイション] 名 「状況、問題」、

line [láin | ライン] 名 「(会話などの)一節」、dialog [dáialɔ:g | ダイアローク] 名 「対話」、repeatedly [ripit:tidli | リピーティドリ] 副 「繰り返されて」⇒ repeat 動 「繰り返す」⇒ repetition [repətʃən | レベティション] 名 「繰り返し」

⑥ This repetition can take place within a single episode, from one episode to the next, or both.

構造 主 This repetition 動 can take place 「この繰り返しは起こる可能性がある」 副 <sup>1</sup>[within a single episode, 「一話の中だけで」 from one episode to the next, 「一話から次の話へ」 or both]. 「あるいはその両方で」

\*1：3つの副詞(句)の並列。

語句 take place 動 「起こる」、episode [éposud | エピソード] 名 「(ドラマなどの)話」

② ① Running gags actually started to be used prior to the widespread adoption of television, in radio comedies during the “golden age” of radio.

構造 主 Running gags 副 actually 動 <sup>1</sup>started to be used 「ランニングギャグは実際に使われ始めた」 副 prior to the widespread adoption of television, 「テレビの広範な普及に先立って」 副 in radio comedies 「ラジオコメディで」 副 during the “golden age” of radio. 「ラジオの『黄金時代』の間」

\*1：start to doにおけるto doの部分は、文法的には動詞startの目的語であるto不定詞の名詞的用法だが、本書では基本的に、start to do全体で1つの動詞句として解釈する。助動詞も含め、動詞を意味するまとまりとしてとらえた方が、より実践的である。

語句 actually [æktʃuəli | アクチュアリ] 副 「実際に」、prior [praíə | プライア] to ～ 「～より先に」、widespread [wáidspred | ワイドスプレド] 形 「幅広い」、adoption [ədápsjən | アダプション] 名 「採用、普及」、golden age 「黄金時代、全盛期」

② This era lasted from around the 1930s until the 1950s.

構造 主 This era 動 lasted 「この時代は続いた」 副 from around the 1930s until the 1950s. 「1930年代ごろから1950年代まで」

語句 era [i:rə | イーラ] 名 「時代」、last 動 「続く」

③ One of the most popular of these shows was called “Fibber McGee and Molly.”

構造 主 [One of the most popular <sup>1</sup> of these shows] 「これらのショーのうちもっとも有名なものの1つは」 動 was called 補・名 “Fibber McGee and Molly.” 「『フィバー・マギーとモリー』と呼ばれた」

\*1：形容詞popularに続く複数名詞(showsまたはones)の省略。

語句 “Fibber McGee and Molly” 『フィバー・マギーとモリー (1935年から1959年まで米NBCで放送されたラジオコメディ)』(※ちなみに1973年アメリカ名作映画『ペーパー・ムーン』において、主人公の子役Addieがこのラジオコメディを聞いている場面が登場する)

④ This radio comedy was about a husband and a wife and was especially famous for one running gag.

構造 主 This radio comedy 「このラジオコメディは」 動 was 補・形 <sup>1</sup>about a husband and a wife 「夫婦についてだった」 接 and 動 was 副 especially 補・形 famous for one running gag. 「そしてとくに1つのランニングギャグで有名だった」

\*1：ここでは〈主格補語〉として、This radio comedyを修飾する

形容詞句と解釈した。意味は容易に理解できるだろうから、深く考える必要はない。

語句 especially [ispéʃəli | イスベシャリ] 副 「とくに」

⑤ In this running gag, when the husband, Fibber McGee, opened his closet to find something, many things would fall out every time.

構造 副 In this running gag, 「このランニングギャグでは」 副 [when the husband, Fibber McGee, opened his closet 「夫のフィバー・マギーが自分のクローゼットを開けたとき」 副 to find something], 「何かを探すために」 主 many things 動 would fall out 「多くのものがなだれ落ちたものだった」 副 every time. 「毎回」

語句 closet [klázət | クラゼット] 名 「クローゼット」、would [wúd | ウド] 助 「～したものだった(過去の習慣)」、fall out 「落ちて出てくる」

⑥ The audience could know that these things were about to fall out because Fibber would announce in a loud voice that he was about to open his closet.

構造 主 The audience 動 could know 「聴衆は知ることができた」 目 [that these things were about to fall out] 「これらのものがまさになだれ落ちようとしているということ」 副 [because Fibber would announce 「なぜならフィバーが告げたものだったからである」 副 in a loud voice 「大きな声で」 目 (that he was about to open his closet)]. 「自分がまさにクローゼットを開けようとしているということ」

語句 audience [á:diəns | オーディエンス] 名 「聴衆、視聴者、観客」、be about to do 「まさに～しようとしている」(be going to doよりもひっ迫している状況)、announce [ənáuns | アナウンス] 動 「告げる」、loud [láud | ラウド] 形 「(声や音が)大きい、うるさい」

⑦ Obviously, given that this was a radio comedy, the audience could only hear what was happening.

構造 副 Obviously, 「明らかに」 副 [接 <sup>1</sup>given that 「～という条件で」 this was a radio comedy], 「これがラジオコメディだった」 主 the audience 動 could only hear 「聴衆は聴くことしかできなかった」 目 [(関代 <sup>2</sup>what was happening)], 「起こっていたことを」

\*1：〈given that ～〉は接続詞的に用いられ、「(～ということを与えられたら→) ～ということを考えれば、～という条件で、もし～ならば」などの意味。暗例 Given that he is 19, his skills for the job are excellent. 「彼が19歳であることを考慮すれば、彼のその仕事への技能はすばらしい。」

\*2：whatは先行詞を必要としない関係代名詞で、「～こと、～もの」の意味。

語句 obviously [ábviəslɪ | アブヴィアスリ] 副 「明らかに」

⑧ When Fibber opened his closet, a variety of loud sounds could be heard as if many different types of objects were falling to the floor.

構造 副 [When Fibber opened his closet], 「フィバーがクローゼットを開けたとき」 主 a variety of loud sounds 動 could be heard 「さまざまなうるさい音が聞かれた」 副 [接 <sup>1</sup>as if 「まるで～かのように」 many different types of objects were falling to the floor]. 「多くの異なる種類の物体が床に落ちつつある」

\*1：as if ～ 「まるで～かのように」は、接続詞の働きで節を導

大問 ① 段落 ② 文 ⑤～⑩  
段落 ③ 文 ①～③

き、節中は基本的に仮定法になる。暗例 He talks as if he knew everything. 「彼はまるで何でも知っているかのように話す。」

語句 a variety [vrá:əiəti | ヴァライエティ] of ～ 「さまざまな～」、as if ～ 「まるで～であるかのように」、object [ábɔ:ʒikt | アブジェクト] 名 「物体」

⑨ The fact that people could only hear what was happening was an advantage rather than a limitation.

構造 主 [The fact 同格 <sup>1</sup>that people could only hear what was happening] 「起こっていたことを人々は聞くことしかできなかったという事実は」 動 was 「～だった」 補・名 [an advantage rather than a limitation]. 「制約よりむしろ利点」

\*1：(同格のthat)。fact「事実」、news「ニュース」、rumor「うわさ」などの名詞は、その具体的な内容をthatに続く節で説明できる。このとき名詞と節はイコールの関係(同格)になる。暗例 the rumor that the star will soon explode 「その星がまもなく爆発するだろうといううわさ」、the news that the missing boy was found alive 「その行方不明の少年が生きて発見されたというニュース」

語句 fact [fækt | ファクト] 名 「事実」、advantage [ədvréntidʒ | アドヴァンティジ] 名 「利点、優位」、A rather [ræðə | ラダ] than B 「BよりむしろA」、limitation [limitéisjən | リミテイション] 名 「制約」

⑩ The power of the imagination increased the effectiveness of this particular gag.

構造 主 The power of the imagination 「想像力は」 動 increased 「増やした」 目 the effectiveness of this particular gag. 「この特定のギャグの効果を」

語句 imagination [imædʒəneíʃən | イマジネイション] 名 「想像」、increase [inkrɪs | インクリース] 動 「増える」、effectiveness [ifektivnəs | イフェクテヴネス] 名 「効果、有効性」、particular [pərtɪkjələ | パティキュラ] 形 「特別な、特定の」

③ ① Although television comedies became more popular than those on the radio during the 1950s, they continued to use many of the same techniques as their radio predecessors.

構造 副 [接 Although television comedies became more popular 「テレビコメディはより人気が高くなったけれども」 than 代 <sup>1</sup>those on the radio 「ラジオでのそれよりも」 副 during the 1950s], 「1950年代の間」 主 they 動 continued to use 「それらは使い続けた」 目 [many of {the same techniques as their radio predecessors}]. 「それらのラジオの前身と同じテクニックの多くを」

\*1：thoseは、名詞comediesの繰り返しを避ける代名詞。

語句 continue [kəntɪnju: | コンティニュー] to do 「～し続ける」、technique [tekni:k | テクニック] 名 「テクニック」、predecessor [prédesəsə | プレデセサ] 名 「先駆者、前身となるもの」、the same A as B 「Bと同じA」

② One of these was the running gag.

構造 主 One of these 動 was 補・名 the running gag. 「これらの1つはそのランニングギャグだった」

③ Some good examples can be found in a 1970s television comedy called “Happy Days,” a very popular show about a group of friends in high school.

構造 主 Some good examples 動 can be found 「いくつかの